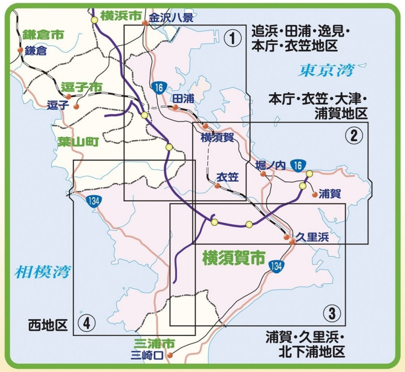
横須賀市 内水（ないすい）ハザードマップ

ポケット版



横須賀市内水ハザードマップは、想定し得る最大規模の雨により下水道施設などで雨水の排水ができない場合に、浸水が想定される区域や浸水の深さを示し、避難所や避難時の危険箇所の把握及び日頃の備えなどの事前準備を、心がけていただくために作成した防災マップです。

※想定し得る最大規模の雨とは、国が示した関東地域で観測された最大の雨量を用いて設定されたものであり、概ね1000年に１度発生する降雨（１時間あたり153mm）となっています。

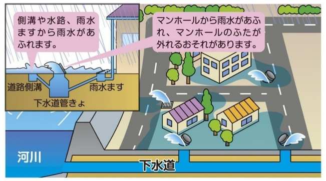
令和8年6月変更

内水氾濫（ないすいはんらん）と外水氾濫（がいすいはんらん）（洪水）の違い

●内水氾濫

雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えた場合や、河川の水位が高く雨を排水できなくなった場合に、マンホールや雨水ます等から水があふれ浸水することです。

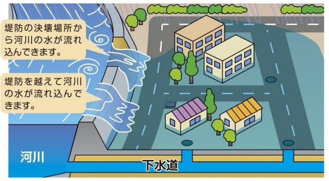
下水道


側溝や水路、雨水ますから雨水があふれます。
マンホールから雨水があふれ、マンホールのふたが外れるおそれがあります。
道路側溝
雨水ます
下水道管きょ
河川
下水道

●外水氾濫（洪水）

大雨などにより河川の水位が上昇し、河川の水が堤防を越えたり、堤防が決壊して河川の水が流れ込み浸水することです。

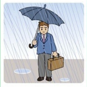
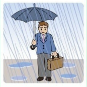
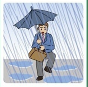
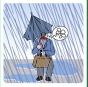
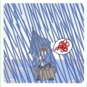
河　川


堤防の決壊場所から河川の水が流れ込んできます。
堤防を越えて河川の水が流れ込んできます。
河川
下水道

雨の強さと降り方

降っている雨を観察することで、大体の雨量を知ることができます。

危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方とその状況を知っておきましょう。

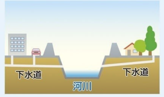
雨の強さ	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量（mm）	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の降り方・状況	●ザーザーと降る。 ●地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 ●雨の音で話し声が良く聞き取れない。 	●どしゃ降り。 ●傘をさしていてもぬれる。 ●ワイパーを速くしても見づらい。 	●バケツをひっくり返したように降る。 ●道路が川のようになる。 	●滝のように降る。（ゴーゴーと降り続く） ●傘は全く役に立たなくなる。 ●車の運転は危険。 	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。 

ハザードマップの活用方法

雨の降り方に応じて内水ハザードマップと洪水ハザードマップを使い分けましょう。

1. 通常は

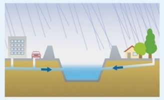
浸水想定と近隣の避難所等を把握し、安全な避難経路を確認してください。



●日頃から
内水ハザードマップ
洪水ハザードマップ
を確認！

2. 雨が降り出すと

徐々に河川や下水道の水位が上がり始めます。

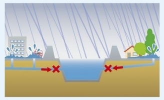


●雨が降り出したら
まずは
内水ハザードマップ
を確認！

3. 雨が強く降り続くと

下水管や排水ポンプ場の能力を超えた雨量になると、土地が窪んだ箇所等で浸水（内水氾濫）が発生するおそれがあります。

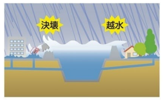
河川の水位上昇等により下水道が排水できなくなると、さらに浸水の危険性は高くなります。



●雨が強く降り続いて河川の水位上昇が予想されるようになったら
内水ハザードマップ
を確認！

4. さらに雨が激しく降り続くと

河川や下水道があふれたり、河川堤防が決壊する等の大きな浸水（外水氾濫＝洪水）が発生するおそれがあります。



●河川が氾濫するおそれがあるときは
洪水ハザードマップ
を確認！

●横須賀市では他に**津波ハザードマップ**と**土砂災害ハザードマップ**等もありますので、災害が発生するおそれがあるときは、状況に合わせて活用してください。

避難情報がでたら

気象庁や横須賀市から出される情報は、５段階の「警戒レベル」に整理されています。数字が大きくなるほど危険です。「レベル４」までに必ず避難を完了しましょう。

警戒レベル	とるべき行動	避難情報（横須賀市）	気象情報（気象庁）【警戒レベル相当情報】 ※気象情報等が発表されたことに伴い、直ちに横須賀市から避難指示等が発令されるわけではありません。
5	【命の危険 直ちに安全確保！】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保	大雨特別警報
4	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。	避難指示	大雨危険警報
3	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は、安全な場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難	大雨警報
2	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	—	大雨注意報
1	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	—	早期注意情報

警戒レベル4までに必ず避難！

天候や水位の急変時には、高齢者等避難を経ず避難指示を発令することがあります。

※警報等が解除されても、河川の水位情報等には注意してください。

災害時の情報収集手段

防災情報メール

防災行政無線の放送内容をメールで送信します。

登録方法

下記アドレスに空メールを送信
（QRコードを読み込むことでアドレスの入力を省略できます。）
bousai-yokosuka@raiden.ktaiwork.jp
↓
登録案内メールが届きますので、案内に従って手続きしてください。

防災行政無線　地震などの災害情報、気象情報などを放送

電話で防災行政無線の放送内容をご案内
防災情報テレホンガイド　TEL：046-822-3900

市ホームページ・LINE・X（旧ツイッター）・災害監視カメラ

市公式LINE・X（旧ツイッター）では防災行政無線の内容を通知します。

横須賀市ホームページ　横須賀市公式LINE　横須賀市公式X　災害監視カメラ

テレビ（データ放送）

リモコンの「d」ボタンから「天気」か「災害情報」を選択
（株）ジェイコム湘南・神奈川（デジタル11チャンネル）でも放送

神奈川県雨量水位情報

神奈川県内各地の雨量・水位観測情報及び河川監視カメラ画像が確認できます。

ラジオ（FMブルー湘南）78.5MHz

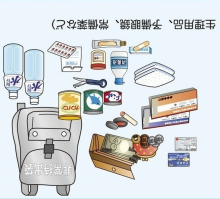
大規模災害時は地域に特化した防災情報を放送。インターネットでも聞くことができます。

風水害時に避難するときのために

風水害時の避難所は、台風などが通り過ぎるまでの数時間～1日程度を過ごす場所です。
そのことを想定し、必要な持ち出し品などの準備をしましょう。
リュックサックなどにまとめ、目につきやすい、すぐに持ち出せる場所に保管しましょう。

非常用持ち出し品チェックリスト

- □ 貴重品類
- □ 身分証明書（運転免許証など）のコピー
- □ 緊急時の家族・親戚などの連絡先
- □ 食べ物、飲料水
- □ いつも飲んでいる薬・そのリスト（お薬手帳など）
- □ 軍手
- □ 雨具（レインコート）
- □ 着替え（下着を含む）
- □ タオル、ウェットティッシュ
- □ 懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池
- □ 携帯電話（充電器を含む）
- □ 家庭の事情にあわせて必要なもの（哺乳瓶、おむつ、生理用品、予備眼鏡、常備薬など）
- □ うちわ・扇子（暑いとき）



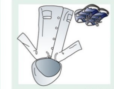
避難所は「難」が去るまでの間、身を寄せ合う場所です。避難所生活には皆さんの協力が必要です。お互いに思いやりを持って過ごしましょう。

お問い合わせ先　横須賀市上下水道局技術部計画課　TEL：046-822-9783 / FAX：046-821-4611
e-mail：mpd-ws@city.yokosuka.kanagawa.jp

こんなことに気をつけてください

■避難時には安全な服装・履物で

裸足は足をけがするおそれがあります。また、長靴は中に水が入ると歩行することが難しくなるので、ひもでしめられる運動靴を着用しましょう。強風であおられ転倒する可能性があるので、傘はささずにカッパを着用しましょう。



■浸水が始まっている場合は避難しない判断も必要

道路が浸水している場合の避難には危険が伴います。既に道路が浸水しているときは、避難所へ避難するのではなく、自宅等の2階以上に上がり水が引くまで待ちましょう。

■浸水した中での歩行には危険が伴います

避難途中に浸水箇所を通過する場合は、長い棒を杖代わりにして、ふたが外れたマンホールや側溝に注意しながら歩きましょう。また、大人が歩くことができる浸水深の目安は50㎝です。これより深い場合や、浸水深が浅くても流れが速い場合は、非常に危険です。

■高いところで救助を待ちましょう

万一、避難途中に水かさが増すなどして行き詰まってしまった場合には、近くのビル等の2階以上に上がるなど、なるべく高いところを探して避難し、救助や水が引くのを待ちましょう。

■原則として車での避難はやめましょう

早めの避難をする場合や、お年寄り、病気の方などを避難させる場合など、特別な事情がない限りは、徒歩で避難しましょう。車での避難は交通集中による事故や渋滞が発生したり、車ごと浸水した場合には、水圧でドアが開かなくなり車内に閉じ込められる危険があります。

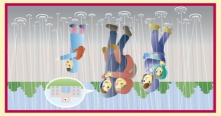
■近所へも目を向けましょう

お年寄り、子ども、障がいのある方、病気の方などは避難時間を要するため、早めの避難が必要です。災害が発生するおそれのある時には、地域の皆さんが協力し合って安全に避難しましょう。

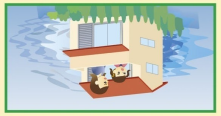
避難行動の種類（水平避難と垂直避難）

避難行動には、自宅外の安全な場所へ移動する「**水平避難**（立ち退き避難）」と、自宅の2階など屋内でより安全な場所へ移動する「**垂直避難**（屋内安全確保）」があり、地域や状況によって避難の方法は異なります。

特に、大雨や夜間における避難の場合は、自宅外への避難途中に被害にあう可能性があるため、避難するタイミングに応じて、最も適切な行動をとりましょう。



河川の近くや浸水深が深くなる地域、土砂災害のおそれのある地域など、そこにいることが危険な場合は、避難所などへ立ち退き避難をしましょう。水平避難（立ち退き避難）は災害が発生する前に行うことが原則です。

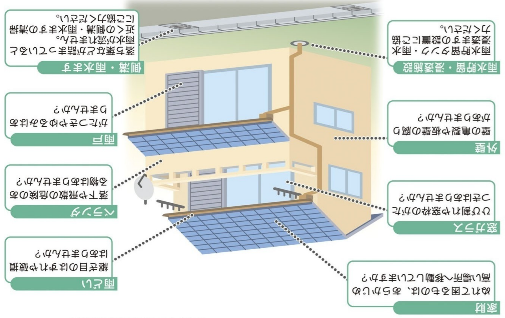


屋外へ出ることが危険な場合は、避難するタイミングに応じて自宅に留まり2階へ移動するなど、垂直避難（屋内安全確保）をしましょう。

家庭でできる浸水対策

●自宅の建物や周囲の備え

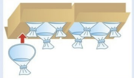
日頃から自宅の建物や周囲を点検して、浸水に対して不備がある場合は改善しておきましょう。


家財
ぬれて困るものは、あらかじめ高い場所へ移動していますか？
窓ガラス
ひび割れや窓枠のがたつきはありませんか？
外壁
壁の亀裂や板壁の腐りがありませんか？
雨水貯留・浸透施設
雨水貯留タンク・雨水浸透ますの設置にご協力ください。
雨どい
継ぎ目のはずれや破損はありませんか？
ベランダ
落下や飛散の危険のある物はありませんか？
雨戸
がたつきやゆるみはありませんか？
側溝・雨水ます
落ち葉などが詰まっていると雨水が流れません。
近くの側溝・雨水ますの清掃にご協力ください。

●道路等からの浸水を防ぐ

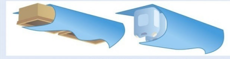
■ごみ袋による方法

大きめのごみ袋を二重にし、中に半分程度の水を入れてしばります。ダンボールにいれることにより、積み重ねることもできます。



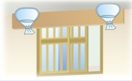
■ビニールシートによる方法

水を入れたポリタンクや土を入れたプランターを並べ、ビニールシートで巻き込みます。



■止水板による方法

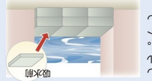
ごみ袋で作った簡易水のうと長めの板を組み合わせ、出入口などに設置します。



■吸水性ゲル水のうによる方法

土のうの代用として市販の吸水性ゲル水のうがあります。

軽く、コンパクトで水を吸うと膨張します。



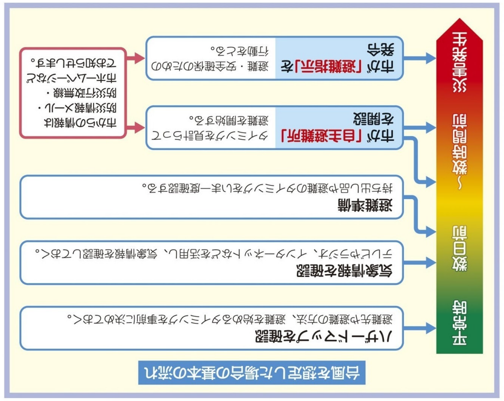
いざという時の避難計画「マイ・タイムライン」を作ろう

避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。

安全確保に必要な行動は、家族構成や生活状況などにより異なります。

自分の状況に合わせた避難計画を時系列で整理したものを「マイ・タイムライン」といいます。

あらかじめ身近な人と話し合って「いつ」「何をするのか」を整理しておくことで、風水害時の行動チェックや判断のサポートになります。



台風を想定した場合の基本の流れ

平常時　数日前　～数時間前　災害発生

ハザードマップを確認
避難先や避難の方法、避難を始めるタイミングを事前に決めておく。

気象情報を確認
テレビやラジオ、インターネットなどを活用し、気象情報を確認しておく。

避難準備
持ち出し品や避難のタイミングをいま一度確認する。

市が「自主避難所」を開設　タイミングを見計らって避難を開始する。

市が「避難指示」を発令　避難・安全確保のための行動をとる。

市からの情報は防災情報メール・防災行政無線・市ホームページなどでお知らせします。

避難のタイミングを逃さないよう、こまめな情報収集を

- ●普段から周囲の人と話し合って備えましょう。
- ●避難準備を始めるタイミングも決めておきましょう。
- ●移動にかかる時間を考慮し、避難開始のタイミングを決めましょう。避難経路の近くに崖など危険な場所がないか、事前に確認しておくことも有効です。